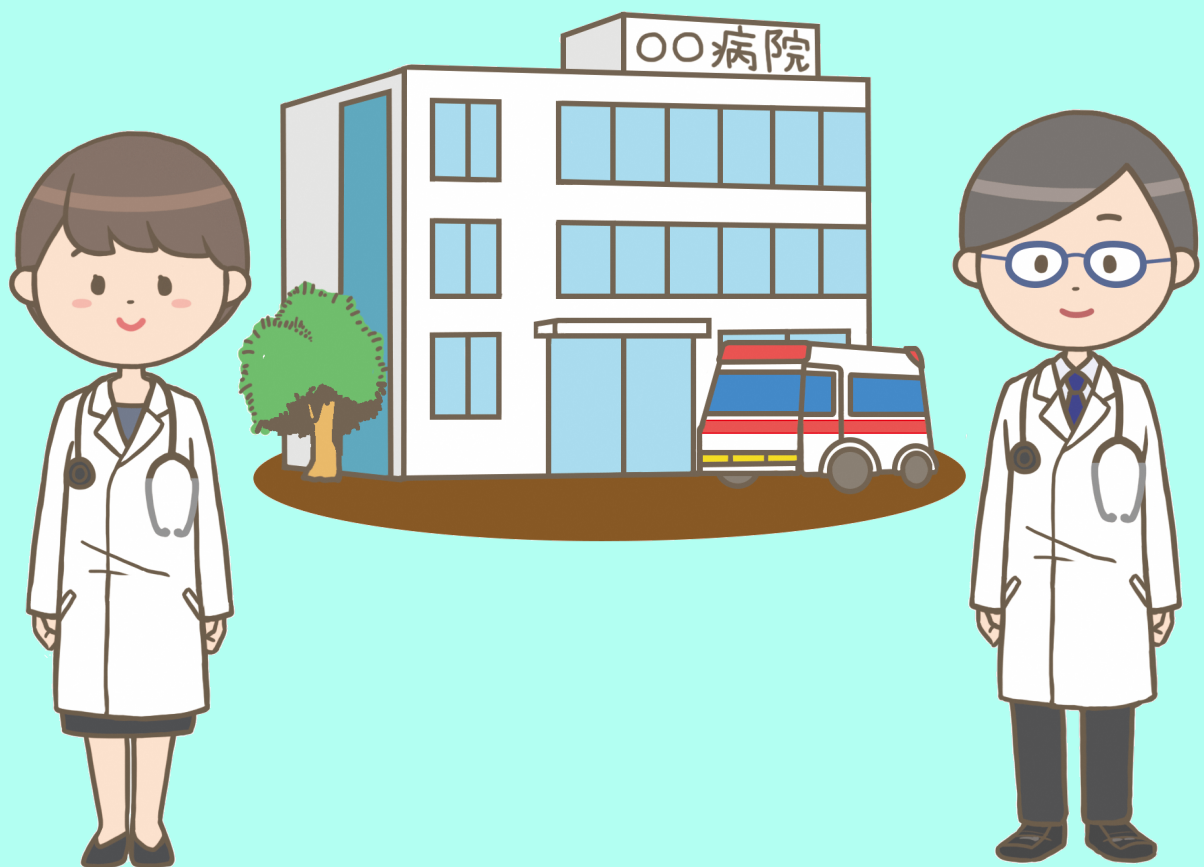


奈良で 医師として 活躍しませんか？



ならUIプロジェクト
奈良県

21世紀の奈良にふさわしい医療を目指して 若手医師の活躍の場が広がります

高度医療の充実を図ります

◆奈良県総合医療センターの移転整備

北和地域の高度医療拠点病院として移転整備を行い、2018年5月1日に開院しました。

<基本方針>

- 救急医療の充実
 - ・急性期医療の充実
 - ・集中治療部門の強化
- 周産期医療の充実
 - ・糖尿病や高血圧症等の高リスク妊産婦に対応した周産期医療の充実
- 専門的な質の高いがん医療の提供
 - ・最新の放射線治療装置の設置
 - ・化学療法室の拡充

◆奈良県立医科大学附属病院の拡充整備

中南和地域の高度な医療拠点病院となる機能強化を図るため、2016年10月からE病棟が全面供用され、がん医療、周産期医療、手術機能を強化しました。また、2018年2月には、ヘリポートが整備され、救急医療がさらに充実しました。

<基本方針>

- 汎用手術室の整備による、先端医療への対応
- 放射線治療や化学療法等の施設の充実と強化による総合的ながん治療の推進
- 総合周産期母子医療センター、小児センターやメディカルベースセンターなど、母と子が快適にサービスを受けられる環境の整備
- 来院者が癒やしを感じられるアメニティ空間を整備

奈良県総合医療センターは働きがいのある病院として地域医療を支える医師の養成を図ります。



新病院 奈良県総合医療センター（奈良市七条西町2丁目）



奈良県立医科大学附属病院E病棟
来院者が癒やしを感じられるアメニティ空間を創出します。

新しい奈良の医療を
あなたの手で創りませんか？



南和地域医療提供体制の再編・整備

公立3病院の機能再編を行い、救急医療を中心に担う病院として南奈良総合医療センターが2016年4月に開院、また、回復期・慢性期を中心に担う病院として吉野病院と五條病院が2016年4月と2017年4月にそれぞれリニューアルオープンしました。急性期から回復期、慢性期までのシームレスな医療を提供しています。

南奈良総合医療センターの整備

<基本方針>

- 地域の救急を断らない病院
- 消化器系疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門医療の推進
- 災害時に対応する医療
- へき地医療への対応

吉野病院・五條病院の整備

<基本方針>

- 地域に根ざした身近な外来機能
- 療養への対応

●在宅医療との連携を見据えた高齢者医療も目指します。

新たな南和地域の医療提供体制では、公立へき地診療所に勤務する医師の診療技術向上のための指導・研修機能も担います。

救急医療を中心に担う病院の整備



大淀町福神地区に新設
南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター

再編



吉野病院を改修
南和広域医療企業団 吉野病院



五條病院を改修
南和広域医療企業団 五條病院

回復期・慢性期を中心に担う病院の整備

奈良県の医療の現状

1. 救急医療と周産期医療

「救急医療」と「周産期医療」の充実は、奈良県の課題であり、多くの県民の方も重要であると認識しています。2024年の奈良県民アンケート調査において、今後奈良県に力を入れてほしい分野（全16項目）の第2位に「医療の充実」、第5位に「子ども・子育て支援」が挙げられました。

◆ 救急医療の充実に向けて

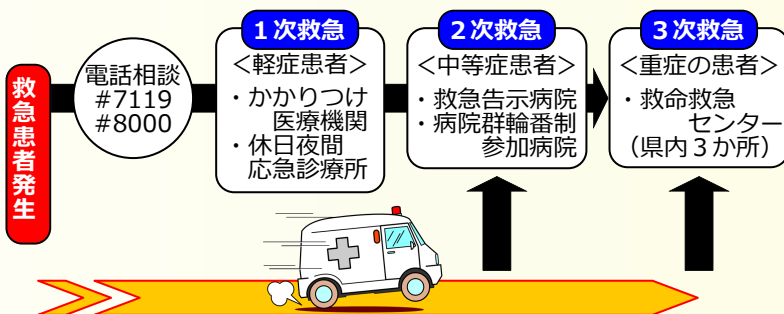
■ 奈良県の救急医療

県では、1次救急（入院治療を必要としない比較的軽症の患者）、2次救急（入院治療を必要とする中等症の患者）、3次救急（2次救急では対応できない重症の患者）と患者が症状に適した救急医療を受けられる体制の整備を進めています。

1次救急医療は、かかりつけ医や各市町村が設置・運営する休日夜間応急診療所が対応し、2次救急医療は救急告示病院が病院群輪番制等により対応しています。なお、小児の2次救急医療については、県内を2地域に分けて輪番制を設けています。3次救急医療は、県内3カ所の救命救急センターが重篤な救急患者の受入を行っています。

救急医療体制

1次、2次、3次救急と、患者の症状に応じて段階的に対応

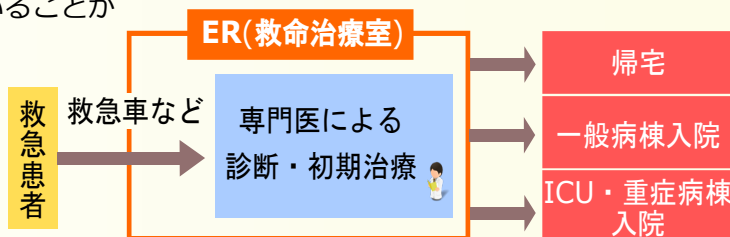


2023年の救急搬送人数（約7.6万人）は、10年前と比べ約31.0%増加しています。その背景として、高齢化の進展に伴い病気による救急車の利用が増加していることが要因の一つと考えられます。

奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センターでは、軽症から重症まで初期診断が難しい患者にも広く対応可能な「ER型救急医療体制」を整えるなど、増加する救急患者の受入を強化し、「断らない病院」の機能を高めるための取り組みを進めています。

あわせて、重症の患者に医師による初期治療を速やかに開始できるよう、ドクターヘリやドクターカーを運行し、救命率の向上、搬送時間の短縮に向けた、救急医療体制の充実を図っています。

また、県民が救急車を呼ぶべきかどうか迷ったときや、医療機関の案内などに対応する「奈良県救急安心センター相談ダイヤル（#7119）」、子供の急病時に医療機関を受診すべきかどうか、様子を見るべきかどうかなどの保護者からの相談に対応する「こども救急電話相談（#8000）」を設置し、症状に応じた適正な受診を促すとともに、不要不急の救急要請を抑制しています。



今後の取り組み

- ER型救急体制の拡充
- 救急医療を担う医師の育成

◆ 周産期医療の充実に向けて

■ 奈良県の周産期医療

奈良県の周産期医療（妊娠22週から出生後7日未満の時期における母体・胎児・新生児にかかる医療）は、各関係機関の連携や医師の努力で改善が図られてきました。

軽症患者を診る産婦人科1次救急体制を確保したほか、2008年に奈良県立医科大学附属病院を「総合周産期母子医療センター」に指定、2010年には奈良県立奈良病院（現 奈良県総合医療センター）を「地域周産期母子医療センター」に認定し、リスクに応じた医療機関の役割分担を推進しました。

この結果、ハイリスクの妊婦の県内受入率は、2006年の79.7%から2022年には100%となり、県内でほぼ受け入れられるよう改善されています。

周産期母子医療センター

ハイリスク妊婦の周産期医療を担う



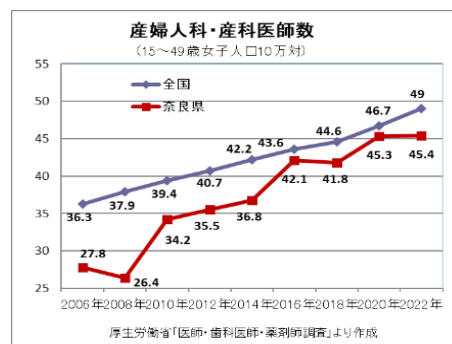
■産科医療を支える医師

奈良県内の産婦人科・産科医師数は、2008年以前は、減少の一途をたどっていましたが、2008年以降は増加に転じました。

2022年の女子人口（15～49歳）10万人当たりの産婦人科・産科医師数は45.4人で、2008年（26.4人）から大きく増加してきており、医師数の充実が進んできたことが確認できますが、全国平均（49.0人）との差はまだあり、産科医療を支える医師の育成を引き続き図っていきます。

今後の取り組み

- ハイリスク妊婦や新生児に対応する周産期母子医療センターの充実
- 産科医療を担う医師の育成



2.がん医療

奈良県における死亡原因の第1位はがんであり、総死亡数に対し24.8%（2023年）を占めています。

今後、高齢化に伴って、がん患者数の増加が見込まれる中、奈良県立医科大学附属病院では、新たながん治療である「ゲノム医療」に対応する体制整備を進めています。また、県民が県内の医療機関で質の高いがん医療を受けることができるよう、奈良県立医科大学附属病院や、奈良県総合医療センター等の「がん診療連携拠点病院」を中心に、がん医療提供体制の更なる充実を図っています。

今後の取り組み

- 県内で質の高いがん医療を提供できる体制の整備・充実



奈良県立医科大学附属病院
E病棟 放射線治療室

3.南和地域の医療

公立3病院が、救急医療を中心に担う1つの病院（南奈良総合医療センター 2016年開院）と回復期・慢性期を中心に担う2つの病院（吉野病院2016年・五條病院2017年リニューアルオープン）に役割を分担して、新しい組み合わせの3つの病院に再編整備されました。

南奈良総合医療センターでは、24時間365日救急搬送を受け入れ、ドクターヘリを運用し、救急医療が強化され、奈良県が目指す「断らない病院」の先駆けとなりました。

また、病院の再編前と比べ2023年は、病床利用率が65.0%→約90%と改善され、救急搬送受入数では、1日あたり5.7件→11.1件と約1.9倍に増加する等、着実に南和地域の医療が充実してきています。

今後の取り組み

- 専門診療の充実
- 災害時医療の強化
- へき地医療を支える医師の育成
- 地域完結型医療の充実
- 総合診療医の育成
- 在宅医療の充実

奈良県の医師数

奈良県の人口10万人当たりの医師数（医療施設に従事）は、2022年は286.8人で全国平均の262.1人を上回っています。（47都道府県中、17位）

奈良県の医師数全体としては増加してきましたが、高度化していく専門医療に対応できる医師のほかにも、安心して子どもを産み育てる社会の実現のために必要な産科医療や小児医療を支える医師、高齢化の進展に対応し、幅広い診療能力を有し、複数の疾患をもった患者に対応できる医師や在宅医療に取り組む医師などが、今後ますます必要となっていくと見られます。

また、2024年4月から「医師の働き方改革」として医師に「過度な長時間労働をしない、させない」制度が施行されました。患者・県民に質の高い安全な医療を維持し、継続的に提供していくためにも、医師が健康で充実して働くことのできる環境を整備し、将来の奈良の医療を担う医師の育成を引き続き図っていきます。



臨床研修は奈良で ～臨床研修について～

医師がどのように養成されるかご存じですか？医学部では、医師に必要な教養を学ぶ教養課程、医学の基礎である解剖学や生理学などを学ぶ基礎医学課程、患者診療に必要な医学を学ぶ臨床医学課程を通じて医師を養成するための教育が行われます。

医学部の卒業が認められると、医師国家試験を受験します。国家試験に合格すると晴れて医師免許が与えられます。しかし、この段階は車の免許で言えば、「仮免許」のような状態です。日本全国どこでも医師として活躍するためには、2年間の臨床研修を受けなければなりません。

臨床研修について、奈良県立医科大学附属病院臨床研修センター長であり、奈良臨床研修協議会代表を務めていただいている 赤井 靖宏 教授 にお話を伺います。

- 医師になるには臨床研修が必須です。
- 臨床研修では医療の基本を学びます。
- 奈良県では多様な臨床研修が可能です。



赤井 靖宏 先生

1995年 奈良県立医大大学院修了。国立循環器病センター研究所を経て、1996年から米国トマスジェファーソン医大病院内科、ペンシルバニア大腎臓・電解質・高血圧内科で臨床修行。2014年から現職。米国内科専門医、米国腎臓内科専門医。

【臨床研修制度】

Q 研修医はどんなことを行うのですか？

A 研修中は、指導医の指導のもとに実際の診療にあたります。

Q 研修医の身分や待遇はどうなっているのですか？

A それぞれの研修病院の規定に従いますが、勤務医として処遇され、給与が支払われます。

Q 研修期間中はどこの病院でも勤務できますか？

A 医師法の規定により、臨床研修を修了せずに一般診療に従事することは禁じられています。研修医は臨床研修に専念する義務が課せられていますので、研修期間中は指定された研修病院以外で医療を行うことはできません。

Q 自分の専門診療科はいつから始められますか？

A 臨床研修修了後に専門研修（「後期研修」とも言います）が始まります。臨床研修修了後は、多くの研修医が専門分野の「専門医」資格の取得を目指して3～5年の専門研修に進みます。

【臨床研修病院】

Q どの臨床研修病院で研修するかはどうやって決まるのですか？

A 研修病院は、全国の大学附属病院や臨床研修指定病院から自由に選ぶことができます。実際の研修先は、医学部6年生の10月に、研修希望者（医学生）と臨床研修病院双方の希望を踏まえて組み合わせを決定する「医師臨床研修マッチング制度」で決定されます。（詳細は臨床研修マッチング協議会HP「JRMP」を参照してください。）

【臨床研修プログラム】

Q 研修中は多くの診療科の研修を受けることになるのですか？

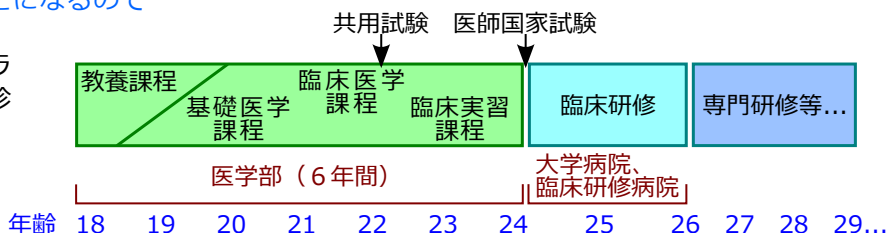
A 臨床研修2年間では、研修病院のプログラムに従って複数の診療科を回り、幅広い診療科での初期診療を学びます。

2020年度からの研修プログラムは、内科、救急部門に加えて外科、小児科、産婦人科、精神科が必須の研修科となりました。また、地域の医療施設で在宅医療などの地域医療を研修することも必須です。必修研修以外の期間は、「将来専門としたい診療科で重点的に研修する」、あるいは「できるだけ多くの診療科を回って研修する」など将来のキャリアにあわせた研修が可能です。

【奈良県の臨床研修】

Q 奈良県にはどんな臨床研修病院があるのですか？

A 奈良県には10の臨床研修病院があります。各病院には多くの熱心な指導医がおり、地域医療から高度な専門性を持つ医療まで、多様な研修が可能です。奈良県の臨床研修病院は従来から緊密に連携してきましたが、平成23年4月には従来の連携をより強化するために奈良県とともに「奈良臨床研修協議会」を発足させました。より良い臨床研修プログラム策定や研修医に魅力を感じてもらおう研修体制づくりについての意見交換やイベントを行っています。協議会が主催するイベントのひとつに、県内の臨床研修医が一堂に会する「研修医の集いin奈良」があります。このイベントでは、研修医の症例発表や指導医の講演などを通じて、臨床研修医・指導医の交流に努めています。また、奈良県内、近畿、全国規模での臨床研修病院説明会では奈良県内の臨床研修病院群で合同出展をしており、県内外を問わず多くの医学生が訪れます。先輩研修医や指導医からじっくりと直接話を聞くことのできるよい機会ですので、ぜひご参加ください。



奈良県の臨床研修病院について

奈良県には10の臨床研修病院があります。

各病院には、魅力的な指導医の先生方、先輩方が多くおられ、患者さんと向き合う地域医療から高度な専門性を持つ医療まで、多様なプログラムを用意しています。

奈良県総合医療センター (540床)

救命救急センターを有する県北和の急性期総合病院であり、指導医のもと幅広い症例を経験することができます。

県内で初めて内視鏡手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を導入するなど最先端の機器を整備し、多くの技術を習得できます。

病院全体で研修医を育てる風土があり、診療科を越えての相談も気軽にできます。充実した研修医生活を用意して皆さんを待っています。



市立奈良病院 (350床)

卒後臨床研修の開設時から、フル・ローテーションのプログラムを継続し、また、地域医療研修、E R研修に力を入れています。



これらの経験から総合的な力を身につけ、また、将来に向けて学び続けるために、自主性のある研修医学習を取り入れています。

モットーは、「楽しく」「患者本位」「学びを大切に」です。ぜひ、一緒に研修しましょう。

天理よろづ相談所病院 (715床)

1976年、わが国で初めて総合診療を基盤とする「天理方式」の卒後臨床研修が当院で開始されました。患者さんのどのような問題もチーム医療によって解決する能力を修得することを究極のねらいとしています。単なる臨床の知識ではなく、その時々の問題を分析し、解いていく知恵が身についているかどうか、つまりいかなる場でも通用する問題解決能力を修得することが、研修の最終目標です。



近畿大学奈良病院 (518床)

「地域がん診療拠点病院」「3次救命救急センター」として地域医療に貢献しておりますが、研修医諸君にとっては、大学病院として専門的な医療を勉強しながら、市中病院のように一般的な症例も経験することができる「いいとこどり」の病院です。

また、様々な出身大学、様々な医局所属の医師が混在しており、診療科間の垣根も低く「Friendly」な環境です。北海道での地域医療研修など、楽しく有意義な2年間を過ごしていただける研修プログラムを用意して、皆さんをお待ちしております。



奈良県西和医療センター (300床)

「医療人教育なくして質の高い医療なし」を精神として、臨床現場での教育を実践しています。研修医には、患者ファーストで考える「医のこころ」と、どんな領域の疾患にも対応できる「医の知識と技」を育ててもらえるように教育体制をつくっています。臨床現場での生の経験とフィードバックを繰り返しながら、進歩する研修です。研修医の2年で必ず習得すべきことを、居心地の良い環境のなかで学びます。



南奈良総合医療センター (232床)

「南和の医療は南和で守る」を基本理念として2016年に開院しました。ドクターヘリの基地でもあり、南和で唯一の公的急性期病院として救急を一手に引き受ける一方、総合診療・在宅・へき地支援にも力を入れ、急性期から回復・療養期、病院・在宅・へき地診療所まで南和の医療を丸ごとシームレスに経験できます。

また少人数制ですので、指導医のもと研修医は主体的に医療を実践できることが特徴です。



土庫病院 (199床)

臨床研修では様々な疾病や患者の諸問題に対応できる総合力を身に付けることを目標としています。その目標のためには、疾病に起因する生活歴や社会背景も捉えながら、人生の営みにおける健康をマネジメントすることが重要です。救急・外来から入院・在宅・退院後の生活までを考え、支える主治医としての能力を高める研修を行っています。患者を中心とする、多職種とのチーム医療を通じて、確かな成長ができます。



大和高田市立病院 (320床)

どの診療科もコモディティーズを抱える患者さんと向き合う機会が豊富で、プライマリーケア修練を望む医療者にとっては、とっても魅力的な病院です。また、教育研修センターは「ジュネーブ宣言」の宣誓式「弱みへの挑戦」と「他者理解」へと研修医の皆さんを導き、「問題対応能力」「科学的探究力」「生涯に亘って共に学ぶ姿勢」を伸ばします。



奈良県立医科大学附属病院 (992床)

大学病院として高度な専門性を持つ先進医療を担いつつ、奈良県中・南部を主な医療圏とする地域中核病院として、プライマリー・ケア、マネジメントの研修が経験できます。臨床研修センターが中心となり、研修医本位の仕組みが策定されており、十分な指導体制の下で多くの手技を習得できること、多数の科の協力の下、論理的な診断治療を学ぶことが特徴です。



医師を目指すみなさんへ ～奈良県からのメッセージ～

県民が健やかで安心して暮らせるまちづくりを進めていくためには、みなさまの力が必要です。奈良を故郷とする方、かつて奈良で学ばれた方、あるいは奈良に興味をもたれた方、医師として奈良の人々の健康やくらしを守っていただけませんか。そして、誰もが安心して質の高い医療を受けられる、そんな奈良を一緒につくっていきませんか。

県が取り組む「医師の育成」

奈良県は、「自治医科大学」や「県費奨学生制度」により医学生を支援し、南部・東部の中山間地域の医療や、産科、小児科などの医師が不足する診療科を支える医師の育成を図っています。

両制度を活用した医師は、卒業後9年間で、県内の臨床研修病院で研修し、県が指定する南部・東部地域の病院やへき地診療所、医師が不足する診療科等において勤務することになります。

医師の勤務先は、へき地医療支援機構や奈良県立医科大学県費奨学生配置センターの担当医師と県とが協議して、「地域医療への貢献」と「若手医師のキャリア形成」の両立に配慮して決定することになります。キャリア形成についてサポートを受けることもできます。

これまでも、両制度を活用された多くの先輩医師が、奈良の地域医療を支えてこられました。9年が過ぎた後も多くの方が、地域医療の現場において、また奈良県立医科大学において研究や教育のフィールドで活躍されています。



公式HP

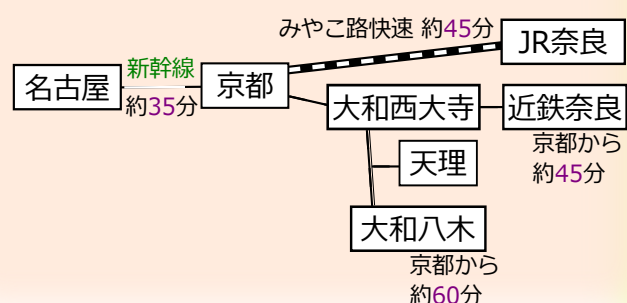
自治医科大学

検索

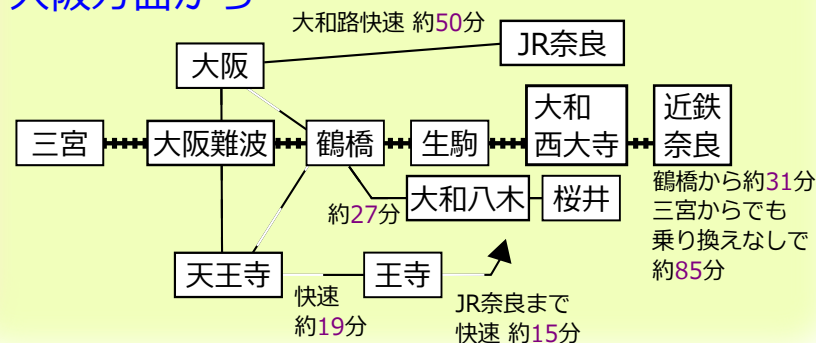
奈良県へのアクセス

※近鉄電車の所要時間は快速急行又は急行利用の場合です。

京都・名古屋方面から



大阪方面から



ならUIプロジェクト

ならUIプロジェクトとは、奈良県から医学部・医科大学へ進学された医学生の方、及びその保護者の方に対して、奈良県の医療政策や医学生向けの情報を提供するサービスです。医学生の方が奈良の医療状況に興味を持ち、将来的に奈良県で医師として活躍することで、奈良県の医療、ひいては県民の皆様の健康を守ることにつながります。

本プロジェクトにご賛同・ご登録いただき、皆様の進路を考えるにあたってのご参考にしていただければ幸いです。

○情報提供内容例

- ・医学部での医学教育の情報
- ・奈良県研修病院見学などのサポート
- ・臨床実習に関する情報提供
- ・奈良県への医師就職サポート
- ・奈良県臨床研修病院に関する情報提供など

ご登録は **ならドクターズネット**

検索



奈良県マスコットキャラクター
せんとくん



2014年2月 初 版発行

2025年2月 改訂版発行

編集・発行 奈良県医療政策局
医師・看護師確保対策室
連絡先 奈良県奈良市登大路町30
TEL : 0742-27-8644